まちづくり
18才の決意

脚本・絵　中村ルミ子

①

みんな「お誕生日　おめでとう！」
今日は、サヤカさんの十八回目の誕生日です。
父　「サヤカが生まれた年に引っ越してきたから、狭山に住んで十八年になるんだな～」
お父さんが、しみじみ言いました。
母　「そんなになるのね。でも狭山って変わらないわ。相変わらず　どこって特色もなくて、つまらない所よね。どうにかならないかしら」
サヤカ「お母さん！」
母　「あら、なに？」
サヤカ「協働によるまちづくり条例が　制定されたの知ってる？」

↓　ぬきながら　↑

母　「はあ？　きょうどうによるまちづくり…って」

演出のポイント

大きな声で
しみじみと
ぐちっぽく
強く
意外そうに

②

母　「新しいマンガ？」
サヤカ　「違う。お母さん、そもそも条例って　なんだか知ってるの？」
母　「じょ、条例って…ええと…」
祖母　「まあ、ユカリさん、そんなことも知らないのね」
サヤカ　「おばあちゃん、知ってるの？」
祖母　「知ってますとも、それはね…」

↓　さっと　ぬく　↑

とぼけたように

とまどう

あきれたように

自信をもって

③

祖母　「悪い霊をお払いすることよ。ええいっ！」

父　「ハハハハ、おばあちゃん、それは、除霊。
条例とはね。地方公共団体、つまり埼玉県とか狭山市が
議会の決議により　自主的に制定する法律みたいなものだよ」

最後を強く

④

ツバサ「お父さん、知ってるんだ。すご〜い！　かっこいい」
父　「そうだろ、ツバサ。お父さんを　みならえよ。エヘン」
サヤカ「じゃあ、お父さんはもう『協働によるまちづくり条例』を
　読んだのね」
父　「い、いや、それは、まだ　だけど…」
ツバサ「なんだ、お父さん、かっこ悪い」
父　「シュン…」
ツバサ「おねえちゃん、その条例って　なんなの。教えて」

↓　ぬきながら　↑

サヤカ「いいわよ。この条例はね…」

感心して
いばって

なさけなく

⑤

サヤカ「狭山市が市民と共に、協働のまちづくりをするための　ルールよ」
ツバサ「きょうどうって、なに？」
サヤカ「いっしょに協力しあって　活動するってこと」
ツバサ「いっしょに、まちをつくるって　ことだね！」
サヤカ「そのとおり。狭山を住み続けたいまちにするためには、まちへの愛着と誇りを持ち、そして行動力を持った　市民の力が必要なの。だれか、どうにかしてじゃ、まちは変わらない。お母さん、分かる？」
母　「は、はい」
サヤカ「自分達で活力にみちた　笑顔あふれる地域社会を実現させる。それが、創造型共生社会よ！」

↓　ぬきながら　↑

みんな「創造型共生社会〜！？」

気づく
あせって
はっきり
不思議
そうに

⑥

サヤカ「そう、子ども達に夢を、若者に希望と挑戦を、高齢者には
安心安全と輝きを！」

父　「それは、確かに素晴らしいけど、そんなに　うまくいくかね～」

サヤカ「お父さん、良い質問よ。この条例のすごいところは、狭山市は
人材が育つ機会を提供し、まちづくりに必要な仕組みを整備する
ことが書かれているところなの。しかも、この条例を検討した
市民検討委員会の提言には、『協働のまちづくりセンター』や
『協働のまちづくり基金』を設置するという提案が入っているの」

父　「ほう、まちづくりセンター、いいね。それに、まちづくりには
お金がいるから、資金援助してもらえる仕組みがあると　本当に
実現しそうだね」

サヤカ「でしょ。お父さんなら、狭山を　どんなまちにしたい？」

↓　ぬきながら　↑

父　「そうだね、お父さんなら…」

力強く

⑦

父　「スポーツの　まちにしたいな～。なんたって、狭山市は
オリンピック開催都市だし、なでしこリーグで活躍中の
女子サッカーチーム・エルフェン埼玉の発祥の地でもあるしね。
ツバサ、おまえも　サッカー好きだろ？」

↓　ぬきながら　↑

ツバサ「うん、そうだけど、ぼくは…」

夢見る
ように

⑧

ツバサ「遊び場が、もっともっと欲しいな〜。入間川の周り全部が巨大遊園地だったらいいな〜」

あこがれるように

↓ ぬきながら ↑

祖母　「じゃあ、わたしは…」

⑨

祖母　「遊び場じゃなくて、たまり場が欲しいわね。おいしい狭山茶を飲みながら、おしゃべり出来るところが　あちこちにあるといいわね～」

↓　ぬきながら　↑

母　「たまり場もいいけど、わたしは料理好きだから…」

うっとり
するように

⑩

母　「狭山茶や、サトイモ、ゴボウとか狭山特産の野菜をたっぷり使ったお料理が、気軽に食べられるカフェやレストランがたくさんあると　いいわね。
　ところで、サヤカ、あなたは　どんな　まちにしたいの」

↓　ぬきながら　↑

サヤカ「わたしはね…」

明るく

⑪

サヤカ「狭山で生まれて　育って、このまちが大好きなの。だから
狭山の良さを発信したい、日本中に、いえ世界中に。
たくさんの人に来てもらえる　まちにしたい」

↓　ぬきながら　↑

ツバサ「おねえちゃん、かっこいい。なんか、今までと違う人みたい」

はっきりと
伝えるように

感心して

⑫

サヤカ「だって、わたしは、今日から十八才。選挙権があるんだから
自分でちゃんと考えて、まちをつくっていきたい。
志を持った　志民になりたいの」

みんな「志民ね！」

宣言するように
はっきりと
大きな声で

↓　ぬきながら　↑

翌日、一家は、散歩に行きました。

⑬

母　「今日は、いつもより入間川が　きれいに見えるわ」
　お母さんは、目を細めました。
ツバサ「あっ、おねえちゃん、光ってる！」
サヤカ「ツバサも、お父さんも、お母さんも、おばあちゃんも
　みんな、光ってるよ」

驚いて

↓　ゆっくり　ぬきながら　↑

母　「サヤカ、お母さん、創造型共生社会って、分かったような
　気がする」

納得した
ように

⑭

母　「子どもから高齢者まで　まちづくりへの想いは、このさざなみのようにたくさんあって、その想いが　全て輝くことなのね」

サヤカ「お母さん、そのとおり！」

↓　ちょっと　間　↑

協働によるまちづくり条例はワークショップ形式の『協働のまちづくり意見交換会』を各地区で行うところからはじめ、さらに、まちづくり条例市民検討委員会で話し合いを重ねました。

狭山市は、「自分たちのまちは自分たちでつくる」を合言葉に、市民と市が力を合わせて、魅力あふれるまちづくりを進めていきます。

みなさん、どうか　この条例を読んで下さい。

そして、

いっしょに、輝きましょう！

気持ちをこめて
強く

明るく
力強く

おわり